

子どもの感染症 一覧表

病名	かかりやすい年齢	潜伏期	症状	感染経路	感染可能期間
百日咳	乳幼児	7～10日	かぜ症状から始まる。次第に咳が強くなり、1～2週間で特有な咳発作になる。咳は夜間に悪化する。	飛沫・接触	約3週間排菌が続く。抗菌薬治療開始後は7日。
麻疹 (はしか)	乳児後半～幼児	8～12日	38度以上の高熱、咳、鼻水、結膜充血、目やに。熱が一時下がる頃、頬粘膜にコップリック斑が出現。熱が再び高くなり、発疹が現れる。解熱し、発疹は発現した順に色素沈着を残して消退。	空気・飛沫 接触	発熱出現1～2日前から発疹出現4日間
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	幼児～学童	16～18日	発熱、片側ないし両側の唾液腺の有痛性腫脹(耳下腺が最も多いが顎下腺もある)	飛沫・接触	耳下腺腫脹前7日から腫脹後9日まで唾液中から検出
風疹 (三日はしか)	5～15歳 ワクチン未接種の成人	16～18日	発熱(一般に軽い)、発疹(淡紅色の斑状丘疹)、リンパ節腫脹。	飛沫・接触	発疹出現前7日から発疹出現後7日間まで
水痘 (水ぼうそう)	幼児	14～16日	発疹は、紅斑から丘疹、水疱、痂皮(かさぶた)の順に変化する。種々の段階の発疹が同時に混在する。かゆみ強い。	空気・飛沫 接触	発疹出現1～2日前から全ての発疹が痂皮化するまで
咽頭結膜熱 (プール熱)	幼児～学童	2～14日	39度前後の発熱、咽頭発赤、咽頭痛、頭痛、食欲不振が3～7日続く。結膜炎、涙が多くなる、まぶしがる、眼脂。	飛沫・接触	咽頭から2週間、糞便から数週間排泄
結核	全年齢	2年以内	初期には無症状。一般的な症状は発熱、咳、疲れやすい、食欲不振、顔色が悪い。	空気・飛沫	喀痰の塗抹検査で陽性の間
髄膜炎菌性髄膜炎	3～5か月 16歳以上	4日以内	発熱、頭痛、意識障害、出血斑。	飛沫	
腸管出血性大腸菌感染症 (O157、O26、O111等)	15歳以下	3～4日	激しい腹痛、頻回の水様便、さらに血便。発熱は軽度。	経口・接触	便中に菌が排泄されている間
流行性角結膜炎	全年齢	2～14日	流涙、結膜充血、眼脂、耳前リンパ節の腫脹と圧痛。	接触・飛沫	発症後2週間
急性出血性結膜炎	全年齢	1～3日	急性結膜炎で、結膜出血が特徴。	飛沫・接触 経口	呼吸器から1～2週間、便からは数か月間排泄

* 上記の感染症にかかっている場合は、登園許可証明書(裏面)が必要になります。その他の感染症については医師の指示に従ってください。
* 登園許可証明書は園にあります。

参考:「保育所における感染症対策ガイドライン」(厚生労働省)・「学校、幼稚園、保育所において予防すべき感染症の解説」(日本小児科学会)